

## 漁協青壮年部活動等交流会

瀬底正武

### 1. 目的

海産物を加工し特産品の開発・商品化を推進することにより漁業経営の振興発展・村の活性化に寄与し、もって部員相互の新睦を図ることを目的に、平成12年8月18日部員17名で渡名喜村漁協青壮年部が結成された。現在、シイラ・シビマグロ・カツオの冷風乾燥・タレ漬け等の加工製品を試作する等将来的には、本村の水産加工品のブランド化を図りたいとはりきっている。

今回の交流会は、結成間もない青壮年部であることから、地域相互間の交流を行い、技術・知識の向上を図るため、県内でも青壮年部活動が活発な八重山漁協青壮年部と交流を深めることにより、横の関係を重視し共通性にもとづく連携活動が青壮年部活動の基本的な考え方であることから同交流会を実施した。

尚、今回の交流会は平成13年度漁協青壮年部巡回移動相談と合同開催した。

### 2. 交流会開催地

八重山漁協同青壮年部

### 3. 日程及び参加者

八重山漁協関係者（青壮年部含めて）青壮年部は西里政晃部長以下8名、漁協担当事務局新城氏、竹富町水産係波照間氏、指導漁業士池田氏、八重山支庁水産業改良普及員山田氏、吉田氏が参加された。渡名喜村漁業青壮年部については、日程等参加者名簿参照。

### 4. 交流状況（1日目：9月7日）

#### 1) 青壮年部巡回移動相談の実施

平成13年度の巡回移動相談の実施計画

について事務局より説明を行う。

さらに、平成12年度青壮年部部長事務局会議のグループ討議の総括（別紙資料参照）が紹介された。引き続き普及センター情報として、「トコブシの養殖技術について」、「シラヒゲウニの養殖技術について」、「クビレオゴノリの養殖技術について」普及センターの興那嶺専技、中村普及員がそれぞれ説明に当たる。

#### 2) 八重山漁協青壮年部との交流会

両漁協青壮年部の紹介がそれぞれの部員間で行われた後、渡名喜村漁協青壮年部の上原部長がOHPでソデイカの薫製を中心にマグロ、シイラの南蛮漬け、ジャーキー、シイラのチョウギリ、カツオなまり節加工について試作品を示しながら発表された。ここでは、「ソデイカ薫製加工」について紹介する。

#### 〈工程〉

原料（頭足部）→煮熟→冷却→調味塗布→漬込→水切り→燻煙→つや出し→包装→製了（一部水試の行程表参考）

#### 〈製法〉

- (1) 頭足部は、水洗いした後、大型鍋に2%の塩水を7分目程度入れ90℃位まで加熱し、その中へ頭足部を入れ同時にパウダー（大さじ1杯）を添加し、攪拌しながら約20～15分間茹でる。
- (2) 冷水中で冷やし、表皮及び吸盤菌等を落とし洗浄する。
- (3) 頭足部表面を丁寧にタオルペーパー等で拭き取り、調味粉を塗布する。
- (4) 大型タッパー等に調味粉を塗布した

頭足部を並べ、上に適当なオモリをのせ冷蔵庫内で14~18時間程度漬け込みを行う。

- (5) 頭足部表面の調味液をぬれたタオルで拭き取り、セイロに並べ火力を弱くし、できるだけ煙の領を多くして通気を充分行い、ムレないように充分注意して、2~3時間程度燻干する。
- (6) 燻干した頭足部は、乾いたタオルでスス等を拭き取り、ゴマ油を表面に塗り光沢をつける。
- (7) 等量づつ計量した後、パック包装して製了。(食味は2日経過後→要冷蔵)

以上、上原部長の発表後質疑応答があり、引き続き八重山漁協青壮年部の西里政晃部長より、八重山トライアスロン大会へ向けてのコースブイ設置等青壮年部の活動が関係者から評価を受けていることや、「海の日」のモデル清掃、海亀の産卵時期を見計らって産卵場の清掃等積極的な取り組みについての報告があった。交流会終了後、午後7時より懇親会が行われ遅くまで泡盛談義の有意義な交流会であった。2日目(9月8日)は石垣市水産課の協力を得て、市の種苗センター及び魚類等養殖場の視察を始め八重山漁協クルマエビ養殖場、日栽協八重山事業場、水試八重山支場等視察を行う。当日は、土曜休日にもかかわらずそれぞれの機関が快く対応していただき感謝申し上げます。

## 5. 所感

### (漁業協同組合と青壮年部活動)

漁業協同組合に属する組合員、及び組合員の子弟によって結成されている青壮年部の活動をみますと、漁業協同組合においても、また地域生産グループにおいても目的は一つで、その地域の漁業の振興を目途として、生産技術の向上、漁業経営の合理化等漁業社会の発展と、漁業者の生活の向上を願っているものです。このように結局目的を同じくする2つの集団が(漁協・

青壮年部)、どのような関連をもって努力していかなければならないか。またその密接さを深め、その関係を永続させるには如何なる方法をとって行くかということになります。この問題を解決するには協調整、共同的相互性、隣人愛といった、要するに助け合いの精神を相互に持つということになります。地域的漁業社会の発展は、その地区の漁業者の資質の向上が基となることをよく考えて、お互いに学習時間を惜しまず、生産、経営、その他の漁業社会発展に必要ないろいろの事गरらについて、常に良く学習して行かなければならない。青壮年部の発展は周囲の理解と協力であり、部員の努力の賜である。周囲にある漁業協同組合や漁連、県等がどんなに一生懸命青壮年部を育てようとしても、かんじんの部員に発展しようとする気もなく、成長しようとする努力することもなければ、周囲の空転となり、結果的には「何だ、若い奴らが」ということになってしまう。またこれとはまったく反対に、部員が先進地視察、研修、講習等により新しい技術を習得し、これをその地域に普及しようとしても、試験研究しようと計画しても、漁業協同組合の協力がなければ、漁場もなく、資金も捻出することができず、目的を達成することができない結果となり、地域漁業の発展は望めなくなる事は明らかです。

以上のように、漁協青壮年部は、いつも漁業生産力の発展と漁村社会の生活の向上を中心の目標として、具体的な課題を持つ目的集団でなければなりません。それだからと言って生産技術一点張りの実利的な活動ばかりでは、青壮年部の発展性は出てきません。人間性の向上という基本的な問題にも目を向けて、柔軟性のある活動を展開してこそ、青壮年部の活動を総合的に発展させていくことが出来るのではないのでしょうか。「豊かな漁村建設」は青壮年部の力で。がんばろう!

漁協青壮年部交流会の参加者名簿

渡名喜村漁協青壮年部会

氏名	職名	所属
比嘉正樹	組合長	渡名喜村漁業協同組合
上原一彦	会長	〃
比嘉義泉	副会長	〃
比嘉誠二	副会長	〃
上原学	部員	〃
瀬底正武	センター長	水産試験場 普及センター
與那嶺盛次	専門技術員	〃
中村勇次	技師	〃

渡名喜村漁協青壮年部活動等交流会日程表

1. 日程

日時	期日	行程
1	9月7日	渡名喜村発→泊港着→那覇空港着→那覇空港発→石垣空港着 11:30 13:30 14:15 14:50 15:45 →八重山漁協で青壮年部移動相談及び渡名喜村漁協青壮年部との交流会 17:30~19:30
2	9月8日	ホテル発→石垣市種苗センター及び魚類等養殖場視察→八重山漁協クルマエビ 9:00 9:15~10:15 10:50~11:20 養殖場視察→水産試験場八重山支場視察→日裁協八重山事業場視察 11:30~12:30 14:00~15:00 →石垣空港発→那覇空港着解散 *お疲れさまでした。 16:25 17:15

2. 目的

青壮年部活動のあり方、方向について意見交換を行い青壮年部活動の推進に役立てればと考え同交流会を開催する。

3. 交流先

八重山漁協青壮年部

4. 引率

水産試験場普及センター 瀬底正武・中村勇次

\*宿泊先 ホテル南西 電話09808 (2) 2422

\*視察等現地への案内はレンタカーを使用する。